

て「山荷葉」となります。葉が大きくて蓮の葉のような感じがあるので、山の蓮という意味の名をもらったそうです。

この高山植物も、あまり高いところになく、せいぜい森林がなくなるところまでに咲いています。高いところへ登ってゆくと、木がだんだん小さくなり、種類も少なくなりますが、こんなところの木の下で、よくこの「さんかよう」にお目にかかります。

茎は1株に1本直立していて、大きな葉が2枚つきます。花が咲くのは暑い盛りの夏ですが、姿は梅の花によく似て、花色は純白です。そして雄しべが黄色で大きいのが6個です。それがこの花の美しさと気品を作り出しているようです。花の数は5花前後であまりたくさんつきません。

私はこの花にお目にかかると、いつも足をとめて眺めます。ほんとうに美しい花です。花が終るとブドウぐらいの大きさの実がつきますが、熟すと黒くなります。花も美しいですが、黒い実がついた時の姿も風情があって、よくスケッチします。花柄が丈夫なせいか、大きな実がついて垂れ下がることもなく、上を向いています。

この花は、葉が大きいため、花の白さが引立って見えるのでしょうか。この花の清純な白さが心に残ります。

この草は「めぎ科」の植物です。

写真によせて（Ⅱ）

ショウジョウバカマとエゾノサワアザミについて

石狩郡新篠津村 外 山 雅 寛

ショウジョウバカマは、5月上旬から6月にかけての新篠津湿原を美しく飾る草花のひとつである。本州にはこの花の白花型を産するという。

写真のショウジョウバカマは、開花直後のもので、普通は淡紫色または淡紫紅色である。この花を時の経過を追って観察すると淡紫色または淡紫紅色から、紫紅色、濃紅色、だい赤色、赤かつ色（終末）へと変化するのがわかる。花序は繖形花序で、ギヨウジャニソニクと同属である。大雪山などの高地にも産するが、高地のみでなく、新篠津湿原、旧美唄湿原、野幌森林公園などにも見られる。新篠津村は、一大米作地帯で、土地の大部分が海拔10mを切っている。水田に沿ってあちこちに地上に架設された用水路があり、そこからしたたり落ちる水滴の下にかわいらしいショウジョウバカマが一直線に並ぶ珍現象が見られる。これは、元来水を非常に好む植物であることを物語るもので、葉先に生じる小株を確実に地に着生せしめ、自ら増殖せんとするものである。（この珍事は湿原以外で見られるものである）

次にエゾノサワアザミであるが、これも本村の湿原を代表する植物である。6月下旬になるとつぼみが色づき始め、やがて下向きに美しい濃紫紅色の花を咲かせる。写真のものは花の美しさに焦点を合わせて接写したものであるが、葉はクシの歯状に深く切れ込んでいるのが特徴である。花期は6月下旬から8月である。